

勤労者等による座談会

「考えよう！男性のワーク・ライフ・バランス」 ～仕事も家庭も充実した人生を送るために～

開催日：平成23年12月17日（土）

場 所：宇都宮市男女共同参画推進センター

《コーディネーター》

NPO法人 宇都宮まちづくり市民工房

理事 岩井 俊宗氏

《参加者プロフィール》

| | Aさん | Bさん | Cさん | Dさん |
|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 年 代 | 40代 | 30代 | 40代 | 30代 |
| 家 族 構 成 | 妻と子3人 の5人家族 | 妻と子3人 の5人家族 | 妻と子3人 の5人家族 | 妻と子1人 の3人家族 |
| 仕 事 | 自営業 | 製造業 | 製造業 | 公務員 |

《座談会録》

コーディネーター： 本日は「考えよう！男性のワーク・ライフ・バランス」をテーマに、市内に住む4名の皆さんにお集まりいただきました。コーディネーターの岩井と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。今日の座談会ですが、何か正解を導くというものではなくて、日頃皆さんの働き方や家庭での時間の過ごし方などについて生の声を聞きながら、より充実した生活を送るにはどうしたらできるだろうということを皆さんと意見を交わしながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

まずは、ワーク・ライフ・バランスの共通認識を図りたいと思います。みなさんは、ワーク・ライフ・バランスという言葉は、聞いたことがありますか。日本語では、「仕事と生活の調和」と訳されています。ワーク（仕事）を見直して、仕事の効率が上がれば時間に余裕を得ることができ「ライフ（生活）」が充実しますよね。ワーク・ライフ・バランスを普及しようとしている背景には、今、日本の人口が減少してきており、それに伴って労働人口が減少していくなかで生産性をどうしたら高められるのかという事があります。

また、家庭においては核家族が非常に増えてきている状況もあり、昔のように「男性は仕事，女性は家庭」といった役割分担では家族生活が厳しい現状があります。家族でどのように支え合うのか，また，社会もどのように支えていくのか，が課題であると認識しています。ワーク・ライフ・バランスを実現し，一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働いていくことと，家庭や地域生活においてもそれぞれの人生の段階に応じて多様な生き方を選択し，実現できるようにするにはどうしたらよいかを一緒に考えられればと思っています。まずは皆さん自己紹介と，日頃から仕事と生活について思っていることがあればお聞かせください。

▼自己紹介▼

Aさん : 家族構成は妻と高校生，中学生，小学生の3人の子どもがいます。以前，会社員を数年やりましたが，今は独立し，自宅で仕事をしている自営業です。妻もフルタイムで勤務しております。3人の子どもは皆，育児休業を妻が一年取得し，その後保育園に預けました。私が自宅にいて仕事をしているので，時間の融通がきくため，家事はひいき目に見てですけれども，正直，妻よりもやっているのではないかと自分では思っています。ワーク・ライフ・バランスという観点から見ると，自営業者の生活は仕事と家庭生活がぐちゃぐちゃになりやすいと思っています。よろしくお願ひします。

Bさん : 家族構成は，妻と小学生が2人と3歳の5人家族です。職業はメーカー勤務です。ワーク・ライフ・バランスという言葉はここ最近耳にしますが，いつもは，まじめにそういうことを考えたことがなくて，ただ日常の生活に追われているという感じです。皆さんの話を聞いて参考になるような事があれば，今後の生活に生かしていきたいと思っておりますので，ぜひともよろしくお願ひいたします。

Cさん : 家族構成は，妻と小学生1人と5歳と3歳の5人家族です。職業はメーカー勤務です。私も妻も実家は県外です。妻は働いていましたので，子どもは保育園に預けました。お互い共働きということもあり，家事は特に妻が担当するというわけではなく，私がするのもあたり前な感じで今まで来ています。それほど家事を手伝うことに私は抵抗もなく，滞っていれば自分からやっている感じで毎日を過ごしています。それと，子どもを保育園に預けましたが，地域に知っている人がいなかったなので，保育園の活動などで（パパ友に）知り合えたのが大きかったかなと思っています。よろしくお願ひします。

Dさん : 家族構成は妻と子の3人です。現在の職業は公務員です。以前の会社では、かなり繁忙の波が激しくて、時期によっては休みが無く職場に泊り込むようなこともあり、本当にワーク・ライフ・バランスとかけ離れたような生活でした。今の仕事はやや規則性ができたのかなと感じています。子どもが小さいこともあり、夜8時半頃には寝てしまいますので、帰宅する頃にはもうだいたい寝ています。平日は子どもとの触れ合いなどはあまり時間は取れない状況ですが、休日には一緒に散歩をしたり、育児に関わる時間を意識して増やしています。それと、家事の手伝いを日曜日は積極的に関わるようにしています。私の場合助かっているのは、私と妻の実家が近いことで、何かあったときにはお互いの両親を頼り、協力しながらできる環境にあることです。よろしくをお願いします。

コーディネーター : 今働いているところはNPOやボランティア活動を支援する仕事をしております。会社と同じ様に勤務時間も勿論あるのですが、どうしてもボランティアの活動や地域の方々たちとの会合などは勤務時間外のことが多く、毎日定時に帰れるとは言いにくい職場環境かなと思っています。私には2歳の子が1人いて、妻も仕事をしています。家事に対しての抵抗は特にはないのですが、できる範囲でやっていければと思っています。共働きならではの、互いに支えあいながら生活をしております。改めてよろしくお願ひいたします。

▼仕事と生活のバランスや子育ての現状は？▼

▼男性が育児に参加するためにはどのようなことが必要か？▼

コーディネーター : 皆さんのワーク・ライフ・バランス推進度はとても高いと感じました。先程、自己紹介にもありましたが、もう少し働き方について共有させていただければと思います。理想としてはもう少し家庭の時間を増やしたいけれども、実際できていないことがあると思いますが、その辺についてお話いただければと思います。

Aさん : 自営業は、それ特有の難しさがあって、やはり自分の家で仕事をしているというのは、職場と家庭という線引きが難しいと感じています。特にお客様から依頼があると、どうしても**仕事優先にせざるを得ないという面もありますし、家事と仕事の切り替えが難しい**ものです。逆に会社勤めしていた方が上手く切り替えができるのかもしれませんが、仕事は大義名分が立ちますが、かたや家事育児は雑用の塊です。**仕事に逃げるという気持ちがどうしてもで**

てくることがあり、その辺の切り替えをどのようにするかが難しいところで
す。やればやった分だけ収入になるようなこともありますので、つつい仕事に走ってしまうことがあります。子どもが小さい頃は、仕事も全部するし子どもの世話や家事もできる限りやろうと思い、そのようにしてきました。しかし、子どもがある程度大きくなった最近になって、それでは自分個人としての生活はどうなのだろうと考えることも出てきました。すべて自己管理の世界ですから難しく、いまだに解決できないところです。

コーディネーター

：父として、職業人として、個人としての自分も持ちつつ、その辺のバランスでしょうか。

Aさん：私の場合、家で一番中心に動いていたものですから父親と母親の両方の役割をしていました。子どもの病院通いや保育園の送迎、学校行事などかなりの部分をやってきましたので、仕事と生活のバランスはぐちゃぐちゃという状況です。

コーディネーター

：自営業者ならではの仕事の大変さや責任は常にあるかと思います。Aさんは先程企業にも勤めていたご経験もあるとのことですが、自営業と会社員勤めで仕事と生活のバランスで異なる点など何かお感じになりますか。

Aさん：会社員をしていた頃は独身でしたし、生活環境が全然違いますが、一番はっきりいえる違いは、休日がハッキリしていることです。勿論会社勤めも休日出勤や残業もありますが、家に帰れば、基本的には仕事をしなくて済むので、仕事環境と生活環境がはっきりと切り替えられます。基本的に家事は融通がきくほうがするようにしています。ただ自営業をしているとやはり気持ちに溜まっていくものもあります。その辺は妻とときどき話し合いをしています。育児にしても家事にしても「自分はこんなにやっているのに」と思ってしまうとダメですね。自分が犠牲になっているとか、人のためにやっていると
思い始めると良くないです。そうなる前に妻と調整しなければならないと思います。

Bさん：私の場合は、家事のウエイトは妻の方にあると思います。でもコミュニケーションで何とか成り立っているのかなと感じています。土日は私が子どもを習い事に連れて行きます。保育園の送迎ではフレックス制度を上手く活用したりしています。それでもウエイトは妻の方がかなり高いとわかっていますので、出来る時に手伝いをするように心掛けています。

コーディネーター : 家事の分担などきれいに半分に分けたりするのは難しいですね。互いに合意しながらそのバランスが夫の方が多い時もあるし、妻が多い時もある。
家庭でそのバランスを認め合えるか、納得出来るかどうかですね。

Cさん : 会社では最近残業の規制が厳しいですね。大きな理由としては景気の悪化と震災の影響です。残業は申請をすれば出来ますが、仕事がたまることはありますね。でも今は勤務形態の関係で夕方以降は比較的時間が有り、子どもの保育園の送迎などを担っています。先程仕事と生活の切り替えの話がありましたが、家では仕事が出来ないので、出来る限り会社でするようにしています。家事の手伝いなどもしており1人だけで過ごす時間はほとんど無いですね。あと、保育園で保護者たちと仲良くなれて、よくお父さん同士で飲みに行ったりとかしますね。お母さんはお母さん同士で飲みに行ってます。そこでなんとなくお互いストレスを発散できています。

コーディネーター : パパ会、ママ会みたいなものですね。

Aさん : 最近いろいろな小学校で親父の会とかありますよね。学校行事の手伝いをしたり親父の会主催でイベントをやったりしています。

コーディネーター : 父親が学校に参加していく機会は広まっていますか。

Cさん : 保育園にもよると思いますが、私たちの所では保護者はいろいろ活動に参加してまして、行事があれば、出し物を毎回しています。あまり参加しない方もいますが、私はそういった催しに参加しているうちにだんだん面白くなってきました。

コーディネーター : 先日子どもの発表会があって、お父さんが来ている方が多いなと思いました。お父さんがそういうところへ出て行くのは、想像以上に広がっているのかなと思います。それに、地域の活動などにも広がっていくのかなと思います。

Aさん : 授業や発表会を観に来るお父さんは最近特に多いですね。入学式や卒業式でも、最近は両親で出席することがとても多いですね。自分の子どもを見に行ったりするのが第一段階で、もう一段階進むと、保育園、幼稚園、小学

校の行事に協力したり。お父さん同士で何かをするなど横のつながりの段階に進むにはもう一段必要かなという感じはありますが、少なくとも授業参観に来るお父さんは昔に比べ、とても多いと思います。

Bさん : 最近はお父さんが義務感ではなくて役割として出てきている人が増えていきますよね。

コーディネーター : お父さんも参加しているうちに仲間も出来て、段々と楽しくなっていて、その保育園の年代ごとの集まりよりも保育園全体がコミュニティーのようになってくるんですかね。自分の子どもと友だちのお父さんの関係から、横や縦のつながりができてくる感じですね。

Bさん : そうすると、お互い声を掛けてみたりするようになります。保育園での縦と横のつながりが広がり、それが小学校に入ってからさらにつながりが広がることもあります。

コーディネーター : なるほど。それはありますね。Cさんにお聞きしますが、残業ができないと仕事が溜まっていくのは他の方も共感すると思います。仕事量事態は大きく変わらない中で、何とかやりくりして残業しないで帰るのは素晴らしいと思います。お子さんの成長に合わせ、仕事ができているのではないのでしょうか。

Cさん : 職場は休暇を取りやすい雰囲気だと思います。入社して十何年前からずっとそんな感じです。以前は残業規制が無くて、よくないなと思いながらダラダラ残業していたこともあります。昔は誰も管理していなくて勝手に残業というのが、会社全体であったと思います。生活するための仕事でもありますが、子どもの成長とともに、子どもたちが私の仕事に理解を示してくれるようになっていきます。

コーディネーター : やはり、子どもがいるかいないかに関わらず、残業は皆さんあまりしないのでしょうか。勿論景気の問題等もありますが。

Bさん : どうしても忙しいときは残業もします。昔は暇な人も残業したいという雰囲気があったかもしれません。

Aさん : 会社としても仕事の効率を上げてくれた方がいいわけですよね。無駄に残業代を払うのも大変です。できる限り効率を上げて働いてもらう方が会社に

もいいわけですね。私が会社員をやっていた頃はだらだらと残業をしていた時代で、仕事の効率性といった意識は全然無かったです。最近は改善されてきたのかなと思います。トップダウンで言わないとそのような雰囲気はきっと変わらないですよ。

コーディネーター : Dさんはお仕事と生活はいかがですか。

Dさん : 私の場合、妻が専業主婦です。家事や育児に関してはほとんど妻にお願いをしています。平日は子どもが寝る頃に帰宅しますので育児にはほとんど携われない状態です。基本的に心がけていることは、平日は妻がずっと子どもと一緒にいるため、土日は妻が1人でいられる時間を作ってあげようと思っています。私が子どもを散歩につれて行ったりして。家庭内での役割分担は特に決めていませんが、部屋が散らかっていたら自分で片付けたりしています。役割分担をしてしまうとめんどくさくなってしまいそうな気がするのですが、うちの場合はあえて役割をつくっていません。仕事では、前の職場では業務上ここまでやれば一区切りというのが見えていましたが、今の職場の悩みは、一日の区切りというのが見えないことです。やろうと思えばいくらでも仕事は出来てしまうので、時間を決めてそれ以降は残業しないようにしています。ただ子どもができることと仕事に対する考え方もずいぶん変わりました。そういうところでは悩んでいます。

Aさん : 仕事と生活のバランスについてはある程度年代によっても変わると思います。20代や30代の頃は仕事に全力で頑張る時期でもあるでしょうし、結婚して子どもが生まれるような時期でもあるでしょう。生活環境の変化によって、バランスもいろいろ変わっていくと思います。ある程度の年齢になると、仕事に走り続けたままでは、将来子どもが思春期になった時にその扱いに悩んだり、熟年離婚になったりしたらまずいと思うので、長い目で見てそのバランスを考えておく必要があると思います。定年退職したら何も残らなくなってしまう、というのは寂しいので、自分のための時間や家庭育児の時間もあらかじめ、とっておかなくてはならないと最近思っています。

コーディネーター : どうしても目の前の仕事は緊急性も高く、やらなければいけないということがあります。それは確かに大事なことです。それだけではなく自分の家庭や退職後のことも考えながら日々の生活を過ごしていく。先のことは見えにくいのでどうしても後回しになりますが、そこに意識を持っていくことは大事なことです。

Bさん : 私の会社は単身赴任が多く、今はいいですが、私もいつ転勤になるのかわかりませんので、他県などに転勤を命じられたら、家族とどのようにつながりを保つのかと考えます。

▼震災による節電の影響により仕事や私生活に変化があったか▼

コーディネーター : 震災以降、節電対策や復旧できずに働けないなどにより、働き方の見直しがあったかと思います。震災の前後で働き方に対する意識が変わったことがあるか、お聞きしたいと思います。

Bさん : 働き方に対する意識は、震災の影響も大きかったですけれども、私の会社ではその前のリーマンショックの方が大きかったと思います。その時に、かなり考え方が変わり、働き方も変えていったおかげで震災を乗り切れたと思います。リーマンショック後は非常に働き方が見直されました。残業をカットするなど経費削減して、その中でもさらに仕事は加速させようという指示がありました。これ以上無駄なところあるかと思いましたが意外とあったという（笑い）。皆少しずつ無駄を見直していきました。働き方が変わって定着してきた頃震災が起こり、事前訓練ではありませんが、振り返ればそれが良かったのかなと考えることがあります。

Aさん : リーマンショックをきっかけに、会社の経営体制を強くしようということで、方針に変化があったわけですね。

Bさん : そうですね。なるべく無駄をなくしていくことで利益を出そうと、まずはそれを強化するという方針が変わりました。例えば残業0にしようという動きの中で、業務の優先順位も出てきますし、選択と集中によって効率性も必然と上がっていきました。効率アップが土壌となって、自分の私生活にも還元されるということかな。

コーディネーター : わかります。時間がたくさんあれば優先順位をつけることなくやれるけれども、時間が限られていると考えた時には優先順位を意識し、仕事の中身を凝縮するので結果的に効率化を図れたりしますね。

Dさん : 私の職場では震災の影響で節電対策があり、週二回は残業しないで早く帰る日が設定されました。ただし仕事量が減るわけではないので、いかに効率よく業務を進めるか、自分なりに考え直すきっかけになりました。あとは、

グループで仕事をしていますので、グループの一人が定時退社は難しい場合、他の人が協力するような体制が出来てきたのかなと感じます。仕事に対する効率意識が変わったきっかけになりました。

コーディネーター

： 私も震災後に何が変わったかという点、妻と子どもたちと、実家との距離がすごく近くなったなと思います。計画停電をしているときには実家に滞在させてもらうことが増えたというのもあり、その時に皆でひとつの茶の間に居る時間が増えました。以前は実家にはたまに顔を出しただけでしたが、震災があって家族が一緒になる時間がとても多くなりました。

▼ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、どのような生き方や働き方をしていくことが大切であると思うか？▼

コーディネーター

： 私は家族との時間をやはり大事にしたいと思っています。仕事上でもいつも感じていることですが、世の中全体として、仕事の安定感に問題があると思っています。昔は会社で一生懸命に仕事をしていればずっと安泰でしたので仕事に集中しようと思っていましたが、会社が自分たちを守ってくれる場所ではなくなってしまった。本当に守るべきところは何か、自分の労力や時間を何に捧ぐべきかと考えた結果、家族との時間を大事にしようという気持ちに変わってきているのではないかなと思っています。

Aさん： 独身時代、会社勤めのときは残業があっても充実した日を送っていましたが、もう少し自分の生活を大切にしたいという思いがあり、仕事と生活を接近させたいというのが私が転職した動機です。しかし、自営業のほうが大変だったり、効率が悪いところもあることに気づきました。成り行きでずっと家事もしていますが、家事育児の分担内容を夫婦間で画一的に決める、一律に線を引くということは非効率だと思います。話が戻りますが、夫婦の話し合いが一番大切ではないでしょうか。

Bさん： 私も常に話し合うことだと思います。自然とお互いにカバーをしているんでしょうね。保育園や小学校での出来事などの情報を共有しながら、その上で「忙しいんじゃないの？」とか自然に歩み寄りの手を入れていく。知らずして未然に火種をとっている気がします。バランス的には妻の方がウエイトは高いのですが、一言二言いうだけでも全然違います。常にフォローを入れるように気を使っています。

Aさん : **いろいろな意味で危機管理**にもなりますよね。仕事もそうですが、片方が完全に仕事、片方が完全に家事になるでは不安ですよね。このご時勢仕事もどうなるかわからないし、突然どちらか急病になることあるかもしれない。それぞれが、仕事も家事も育児も出来るというのであれば安心できるかもしれません。

Dさん : よく母親が先に亡くなり、家事など全く出来ない父親1人が残されるという状況がありますが、それを想像すると危機感がつのります。小さい頃、親と掃除や家事を一緒にやらせて貰えた環境でしたので、今、家事が苦にならないひとつの要因になっているのかなと思います。自分や妻の予定、体調など、ちょっとしたことでもコミュニケーションをとって「ありがとう」と言っています。**お互いに感謝する思いがあれば、自然に手伝ってあげられる**と思っています。**分担をはっきり決めない中でも上手くやっていくためにはそういう感謝の気持ちも必要**なのかなと思います。

コーディネーター : 過去と比較は出来ませんが**父親としての役目が変わって**きているのかなと思います。単に稼いでくれば良いという父親像ではなくなってきていて、**人生のパートナーとしての役割。家庭との共有をたくさん持つ**ことで家族の絆になっていくということを感じました。

Aさん : **子育ての観点**で言えば、母親だけが子育てするのは視点が偏りがちだと思います。**女性だけじゃない、男性からの子どもの接し方もある**でしょう。違う視点や考え方があることはいいことだと思います。偏見かもしれませんが母親は子どもを大事に守ろうとする気持ちが強い気がします。父親であれば少し危ないことでも、1人でも何とかできるように冒険をさせるとしています。いろいろな事をさせて育てるには**両方の視点を取り入れる方がメリットが大きい**と思います。

コーディネーター : 私も共感できる場所があります。もう1つの仕事でニートやひきこもりの若者たちを自立させて、就労につなげて行く仕事をしています。その年齢層が**25~35歳位**の方が多い。学校を運営して思うのはそういった家族の共通点です。家族の共通項が見えるのは、母親は子どもと一緒にどうしようかと熱心なのに、父親は無関心に近いくらいなかなかコミットメントしない。子どもと係わっていないし、今まで係わってきていないので、お父さんの声が子どもに届かない。何かあったら妻にどうしたんだと話をする。ある種、亭主関白像みたいな部分がひとつの傾向としては見える。母親は心配で過保

護的になってしまっていて、子どもがチャレンジする要素がなくなってきてしまっている。そのような若者の家族の絆を再構築するというものが重要な取り組みでもあると思います。もうひとつニートや非行になる特徴としては、自然体験が本当に少ない。小さいときに川で遊んだり、釣りをしたり、山に登ったりした経験が本当に無いんです。驚くほど共通しています。そういうのがあって自分の家族以外の例えば地域と係わることが少ない。それと家の中で「お客さん化」している傾向がある。そういう意味で父親が小さい頃から子育てに係わっていく必要があると思います。

Bさん : 仕事は金を稼ぐための手段だという考えは前面には出たくはないですね。ですから僕は純粹にありのままを伝えている。仕事に対する好奇心は子どもたちにも伝わっていると思います。

Cさん : 自営業は会社員と違って、自分の仕事をしている姿を子どもに見せられるのは良いですね。私の父親は自営業でしたので父親と関わる機会はありましたが今まったくそれが無くて、「会社でパパは何をやっているの」という感じで、それが嫌だなと思ってます。「パパはこういう仕事をしている」など、父親としてそういうコミュニケーションがとれないかなと思います。

Aさん : 保育園や小学校での手伝いは、そのような良い機会ではないかと思います。そういうところで父親の活躍ぶりを見せるというのも、子どもにとってもいいのではないかと思います。

Dさん : 自分の職場では職場見学があります。子どもも自分の父親がどんな仕事をしているのか興味があると思うし、実際、同僚たちにああいうお子さんがいるんだというのが分かるというのではないのでしょうか。その人に対しての気持ちの配慮とか思い入れができると思うし、協力的になるかもしれません。面白い制度だなと思います。

Cさん : 会社の夏祭りなどでオープンハウスという制度がありますが、正直、仕事をしているところに自分の子どもを連れて行くというのは気を使うし、なかなか難しいかなという気もしています。

コーディネーター : 実際にやるとなったら難しいけど、すごく大切な要素があると思いますね。子どもを連れて行きたいという気持ちもありますが、職場や仲間への配慮もあったりなど。逆に、子どもをつれてきても大丈夫な職場環境というのも

いいなど。子どもにとっても父親が働く背中がかっこいいという憧れになったり、仕事に対する意欲などいろんな物が生まれると思いますね。

▼まとめ▼

- コーディネーター** : 最後になりますが、ワーク・ライフ・バランスを実現したいと思っても、それを実現できていない現状にいる方もいらっしゃるかと思います。そういった方たちに対して、こういうことをしたから生きがいや働きがいを持てていますなど、最後に一言ずつお聞かせ頂きたいと思います。
- Aさん** : 今見直してみると、仕事一辺倒のところもずいぶんあったので、自分自身や家族の将来を考えると、仕事だけではなく長い目で考えなくてはいけないと思っています。10年後20年後の家族や自分が年を取った時に幸せでいられるのか。仕事以外のところから考える必要があると思っています。もちろん仕事は収入の手段として、あるいは働きがいや生きがいとして重要なものでありますが、そこだけに偏ってしまっていいのだろうか、このままでいいのかと時々考えます。子どもとの関係が壊れてしまった時に、それを修復する期間というのは壊れた時間と同じだけ、あるいは倍以上も掛かるといわれています。
- Bさん** : 今は世の中の変化が激しすぎて、先のことが読めないですね。定年も65歳に延長されたら、一生働くことになるんじゃないかという気がします。その時まで変化も予想しつつ働いていけるかという分かりませんよね。まずは5~6年先を考えてベストを尽くしていきたい。家族や地域の方とコミュニケーションをとりながらうまく助け合っていくことが大切ではないかと思います。
- Cさん** : まずはそんなに構えずに、地域やご近所のイベントなどに参加してみてもどうでしょうか。実際やってみると楽しいこともあるので、あまり身構えずにやってみるといいですね。
- Dさん** : 自分の経験で思うのは、育児や家事に取り組むようになってから、今まで気づけなかった、親や相手に対する感謝の気持ちが出てきました。自分に関係している人へのありがたみというのが再認識できましたし、人にもやさしくなれたり、人として成長できるのかなという気がします。

コーディネーター

： 私も子どもが生まれてから自分の考えが変わったなと思います。保育園がなかったら働くことも出来なかったでしょうし，人に感謝する機会が増えたなと思います。今日改めて色々なお話を聞かせていただいた中で，**私たちは家庭だけではなくて，保育園や小学校，地域での仕事などいろいろな役割のなかで密に繋がっている**なということを共有できたと思います。自分の役割を果たす時には様々な人との係わり方が必要であり，そこには**家族においてもコミュニケーションが大切**ということでした。また，社会状況が厳しくなっていることもあり，個人のライフスタイルや働き方，価値観が見直されていくなかで大事にすべきところとして，**家庭や地域とのつながりが重要**であることを改めて再認識できたと思います。本日は，どうもありがとうございました。